

トラマルハナバチが生息していない田島ヶ原にオオマルハナバチが少数ではあれ、生息していることは不思議です。もっとも、オオマルハナバチが田島ヶ原のサクラソウの主要な花粉媒介昆虫である可能性はありませんが。

私は田島ヶ原のサクラソウの主要な花粉媒介昆虫は過去も現在もホシヒメホウジャクやホシホウジャクなどのホウジャク類であろうと思っています。これらのホウジャク類の幼虫はヘクソカズラの葉を食べ、蛹化は食草上で行われます。これらのホウジャク類は成虫で越冬し、多化性であるため、成虫はほぼ一年中見られます。フェンス等に

からみついているヘクソカズラを春～秋に刈り取らないようにし、6月から10月までの蜜源としてアベリアを都市公園の一部や道路沿いに植栽すれば、これらのホウジャク類の個体数は増加するでしょう。

アベリアのような栽培種を増やすことには私自身、抵抗があるのですが、指定地に隣接した場所に手を加え、指定地のサクラソウの他花受粉を促すことは決して悪いことではないでしょう。

(シラサギ記念自然史博物館館長・農博)

## 田島ヶ原サクラソウ自生地の調査(1998年)(抜粋)

南部 敏明

1998年はサクラソウの開花している間のみ4日間(4月8, 10, 21, 28日)調査を行った。時間は朝10時から夕方4時頃である。昼間、サクラソウを訪花している昆虫がいるか、を中心に次の調査を行った。

1. サクラソウ自生地に生息している昆虫
2. 特にマルハナバチが生息しているか
3. サクラソウを訪花している昆虫がいるか
4. サクラソウの花に潜っている昆虫がいるか

### 1. サクラソウ自生地に生息している昆虫

サクラソウの花粉媒介をしている昆虫がいるのか調査が主目的であるが、自生地の昆虫相の概要を調べておくことも、何か役立つことがあるかもしれないと思い、見かけた昆虫を採集した。捕虫網による採集と、YPT(イエローパントラップ)による採集を行った。標本にしてあるもの、採集はせず記録したのみのものもある。科または一般名でその種類数と標本数を挙げる。目撃したものをすべて採集したわけではないので、個体数はあまり意味がない。目、科、種類数(個体数)を挙げる。

**直翅目** キリギリス科 1(2)、コオロギ科 1(1)、ヒシバツタ科 1(1)

**異翅目** ツチカメムシ科 1(2)、ヘリカメムシ科 3(4)、サシガメ科 1(1)

**同翅目** ヨコバイ科 1(1)

**ハゼムシ目** 1(1)

**アメンボ目** クサカゲロウ科 1(2)

**アザミウマ目** (3)

**鱗翅目** シジミチョウ科 1(2)、タテハチョウ科 1(2)

**甲虫目** オサムシ科 1(1)、コガネムシ科 1(10)、

コメツクムシ科 1(1)、ジョウカイボン科 1(1)、テントウムシ科 1(1)、クビナガムシ科 1(2)、アリモドキ科 1(11)、ハムシ科 10(31)、チョッキリゾウムシ科 1(2)、ゾウムシ科 2(10)

**双翅目** (同定未済)(150)

**膜翅目** ハバチ科 14(42)、ヒメバチ科 30(36)、コマユバチ科 5(5)、コバチ上科 4(4)、タマバチ上科 2(2)、アリガタバチ科 2(2)、アリ科 2(17)、ベッコウバチ科 3(3)、アナバチ科 1(1)、アリマキバチ科 1(1)、ケラトリバチ科 1(12)、キングバチ科 1(1)、ムカシハナバチ科 1(1)、コハナバチ科 9(49)、ヒメハナバチ科 2(3)、ハキリバチ科 1(1)、コシブトハナバチ科 3(13)、ミツバチ科 1(2)

その他採集はしなかったが目撃したものが若干ある。

気温の低い日、露の多い日(雨の翌日)などはほとんど昆虫は飛んでいない。これは生息している昆虫のほんの一部と思われるが、案外多くの昆虫が生息していた。

### 2. 特にマルハナバチが生息しているか。

マルハナバチがサクラソウの花粉媒介をしているという記録があるので、特に注意を払ったが、この4日間には見られなかった。磯田洋二氏がオオマルハナバチの訪花を記録され、写真に撮ってられる。オオマルハナバチは平地には少なく、山地性と思われていたが最近他の場所(東京千代田区)でも採集されている。セイヨウオオマルハナバチがビニール温室におけるポリネーションの目的でヨーロッパから輸入され、野外に逃げ出したものが採集されているが、まだ定着はしていないようである。もしマル

ハナバチが生息していれば、トラマルハナバチカコマルハナバチと思っていたが、オオマルハナバチがいたことは意外であった。過去の記録がないので、マルハナバチ類によって花粉媒介がどの程度行われていたか、現在はどうであるのかは今回の調査からはわからなかった。

### 3. サクラソウを訪花している昆虫がいるか。



田島ヶ原のサクラソウを訪花したホシヒメホウジャク  
(柴瀬司氏撮影)

今回の調査中にはサクラソウにとまって吸蜜行動をしている昆虫は見られなかった。他の人が吸蜜を見ているクマバチ、キタテハなどは飛んでいるところは多く見られたが、吸蜜しているところには出合わなかった。クマバチは吸蜜する場合は盗蜜(花の根元を外から突き刺すので花粉媒介には役に立たない)するのではないかと思われる。

サクラソウと同時に花をつけているアマドコロには多くの蜂が訪れていた。アマドコロにもぐった蜂を採集したところ、ニッポンヒゲナガハナバチ1個体、キオビツヤハナバチ3、ニホンミツバチ2、コハナバチ科2種9個体が得られた。

### 4. サクラソウにもぐっている昆虫がいるか。

4月28日にサクラソウの花100個を開いて中に虫がいるかを調べた。いるとしても小さいアザミウマカアリなどと思っていたが、結局中に虫の潜っていた花は0であった。

ついでにアマドコロの花200花を開いてみたところ、アザミウマ3、小さなハエ1、コバチ1、甲虫(ホソクビアリモドキ)5、アメイロアリ2、トビイロケアリ12が入っ

ていた。

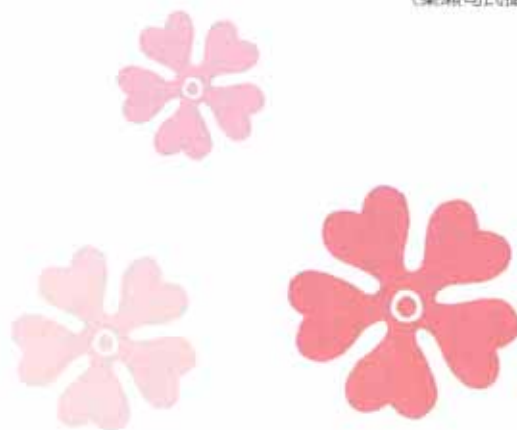
大きさからみて、アザミウマ、アリ、甲虫などはサクラソウにも入ることが可能であるが、なぜ入っていないのだろう。

1998年は昼間サクラソウを訪花する昆虫は記録できなかった。現地には多くの昆虫、とくに蜂の仲間が生息していることがわかったが、サクラ草には訪れていない。他の人がオオマルハナバチの訪花を記録しているが、数は少ないようで、これの花粉媒介昆虫としての働きはあまり大きくはないであろう。

1999年ももう少し同様の調査を行う予定である。



日没後に撮影したサクラソウ(ストロボは使用していない)  
(柴瀬司氏撮影)



さくらそう通信

平成11年3月26日

編集・発行 浦和市教育委員会

浦和市常盤6-4-4

☎048-829-1796



題字 教育長 浅見 匡